

<巻頭言>



新年を迎えて

藤井 敏 夫*

平成10年の新春を迎えるにあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

新年明けまして、おめでとうございます。会員の皆様には、佳いお年を迎えられましたことと、心からお慶び申し上げます。

お蔭様で、本会の事業活動は順調に進んでおりまして、昨年も事業計画に沿って所期の成果を収めることが出来ましたが、これも一重に、ご当局のご指導、並びに会員の皆様のご高配の賜物でありまして、心から深く感謝申し上げます。また、本年も何とぞよろしくお願い申し上げます。

昨年も大変慌ただしい一年でありましたが、また内外ともに多難の年でもありました。ペルー人質事件は、悲壮な結末とともに国際テロへの貴重な教訓を残し、また沖縄基地や日米防衛ガイドラインの協議では国家と国防、自衛と同盟をめぐる国論は分かれ、近隣注視のうちに国益に関わる重大な決断を迫られ、苦悩に満ちた外交の年となりました。

政治経済はといえば、行財政改革は緒についたばかりで先行き不明、景気の動きも期待されたほどの勢いはなく、金融危機が叫ばれ企業倒産が報じられ、未だ混迷・停滞の域を脱しません。さらに、政府予算は公共事業費が圧縮され、ダム事業においても計画が一部変更されるなど、総じて厳しい情勢のままに問題を抱えて越年となりました。

またこのところ、異常な事件が頻発して社会不安を駆り立てております。想像を絶するような少年残虐行為には国じゅうに衝撃が走り、さらに連続通り魔、巨額な強奪等相次ぐとあっては、戦後このかた繁栄の陰で失われたものへの悔恨は深く、その重みに危機感募り、半世紀の歳月を経てようやく心の教育が問い直されるに至りました。

こうした社会不安に加え、地滑り、崩落、土石流等の自然災害もなかなか後を絶たず、また台風の季節には家屋の倒壊流失や死傷者の悲報も一再ならず、そのうえ地震の予知も世の期待には及び難いとなれば、不時への備えにも一層周到な配慮が求められましょう。なにかと災害防止への示唆に富み、教訓に満ちた一年でありました。

* (社)日本大ダム会議 会長

ダム事業についても、環境や地域対策、さらには前述の財政逼迫など情勢は益々難しくなっております。このような事態を打開するには、技術の開発と併せて広報の強化が重要となるのは論をまちません。本会では、従来からの技術面の調査研究組織に加えて、昨年あらたに広報の強化組織が編成され、早速に活発な活動が進められております。

ところで一口に広報といっても、実際にはなかなか大変なことと思います。例えば土木学会では、広報の強化のために広報委員会が新設され、事務局に広報室が併置されて既に十年、その間「土木の日」や「くらしと土木の週間」をはじめとして、全国的な広報活動が強力に進められておりますが、風評の手強さは、よく知られるところであります。

「好事門を出でず、悪事千里を走る」の譬え通り、好評は悪評に駆逐されるのが世の常です。しかも時代は、いまやNIMBY（総論賛成、各論反対）といった風潮が内外ともに蔓延し、建設事業への逆風を一段と強めております。不信感とエゴイズムが相手となれば広報活動は益々難しく、またそれだけに活動成果への期待が一層高まります。

去る5月にフィレンツェで開催された第19回 ICOLD 大会においても、ダム反対運動に対してはHOEG 新総裁から「各国内委員会は ICOLD 環境・広報委員会等の資料を参考に、誤った情報を正し、批判に応えられたい、云々」との呼び掛けが行われております。本会の広報活動には、海外からも多く関心が寄せられることとなりましょう。

色々な難題を抱えたままに年が改まれば、21世紀もいよいよ手の届くばかりとなりました。新世紀最大の課題、それはいうまでもなく人口問題を抱えた地球環境問題であり、生産・消費の構造、延いては資源・エネルギーの開発に関わる問題であります。そして、その解決は一にかかって国際合意と実行にあります。これこそは難題中の難題です。

地球環境問題を代表する温暖化に関して、昨年末に「地球温暖化防止京都会議」が開催されておりますが、温室効果ガス抑制目標の策定は事前協議から難航を極め、その顛末は難解です。リオでは「枠組み」が採択されましたが、各論ともなれば国益が絡み駆引きの挙げ句の決着とあっては、「計画合って、実行足らず」の愚を犯さぬことこそ肝要です。

我が国では環境負荷軽減の技術開発はすでに相当進んでおりますので、この上の削減はとて一筋縄ではまいりません。例えば電力では、二酸化炭素の抑制には原子力の役割が重要となりますが、現実に立地を進めるのはそう生易しいものではありません。徹底した安全管理と強力な広報活動が、従前にも増して厳しく求められることになりましょう。

ダムの場合も環境問題は年を追って益々厳しく、その対処如何で事業の遂行が危うくなるのも自明のことです。しかも、必要なダムは必要な時期に造られなければなりません。綿密な調査研究とともに有効な啓蒙広報に、より一層の期待が懸かります。あらためて、本会の果たすべき使命を思い、今後の事業活動の実りある成果を希うものであります。

1998年の年頭にあたりまして、会員の皆様の一層のご健康、ご活躍と、本会の今後の充実、発展を心から祈願申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。